



社会言語科学会ニューズレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 7 号

2000年8月8日

発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室

URL <http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

〈巻頭言〉

フィールドワーク

社会言語科学会・前理事

日比谷 潤子

故徳川宗賢初代会長の主導下、「学問の共和国」設立を目指して社会言語科学会が旗揚げしてから、2年半になる。ニューズレター第6号で既報の通り、次期理事・監事も選任され、本号がお手元に届く頃には新体制への移行が完了しているはずである。

本学会は異分野間の建設的な交流を目標に発足したため、会員の専門領域も多岐にわたるが、全員の共通項があるとすれば、内省のみに頼るのではなく、実際の言語事実を探求していることだろうか。この点は、これまでの大会発表や「社会言語科学」投稿論文を一見すれば明らかであろう。言語データの収集には、フィールドワーク、実験など種々の手法がある。個々の研究者が集めたデータをコーパス化し、共同利用する試みも本格化している。私自身は、これまで主にフィールドワーク資料を分析してきた。フィールドワークは、研究者にとって不可欠なデータを提供して下さる方々にお目にかかり、信頼関係を築き、その肉声を記録していく営みである。

私が初めてフィールドワークを体験したのは1983年、「言語共同体研究」という授業の一

環として、フィラデルフィア市西部のインドシナ系米国人のコミュニティーに1年間通った。3年後、今度は文京区根津で住民票から無作為に選び出した90弱の方々を対象に、6か月にわたってインタビュー調査を行った。この間にはさまざまな出会いがあったが、ここではお名前を入手しただけで、実際にはお会いできなかった方のことを記すことにする。

あれは夏も盛りを過ぎ、朝晩は秋の気配が感じられるようになった頃、午前の調査が終わり、午後の1番か2番、住民票記載の住所にあったのは蕎麦屋だった。表から入るのはいかなものかと思い、裏口から声をかけてみたが返事なかった。表に戻って引き戸を開け、「こちらに〇〇××さんとおっしゃる方はいらっしゃいますか。」と尋ねると、店主とおぼしき人の顔色が変わった。「ちょっと裏へ回って。」もう一度裏へ行くと、「〇〇は今どこにいるの。」それはこっちが聞きたい。「あのう、私は区役所で住民票を見てうかがっただけで……」「あんた、ほんとは知ってるんだろ。うちも迷惑してるんだからさ。」「……」「分かってるんだよ。あんた、〇〇の、(小指を立てて)、だろっ。」何でも〇〇××氏はその夏、店の売上金を持って、交際中だった年上の女性と逐電してしまったのだそう

[次頁へ続く]

第6回大会

案内(会場・交通・手話通訳) …p.2,3

プログラム …p.3~5

第7回大会

お知らせと研究発表の募集 …p.6

ワークショップ企画募集 …p.7

ニューズレターへの投稿募集 …p.5

訂正とお詫び …p.5

事務局からのお知らせ …p.7

で、私は〇〇氏を唆した悪い女に違いないというわけだ。住民票の記載によると、〇〇氏はまだはちを過ぎたばかりだったから、その頃から「鉄火の姐御」型だった私は、いかにもそれらしく見えたのだろう。しかし、どこの世界に、逃避行の相手が働いていた店に、デンスケをか

つぎ、マイク片手に乗り込んでくる女がいるというのか。20分ほどでようやく解放してもらったが、路地を出る時「ほんとに何にも知らねえのかねえ。」というつぶやきが聞こえたところをみると、疑いは晴れなかったようだ。

(ひびや じゅんこ)

第6回社会言語学会大会 プログラム

期日 2000年9月9日(土)～10日(日)

場所 中京大学 名古屋学会 センタービル (0号館)

所在 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2

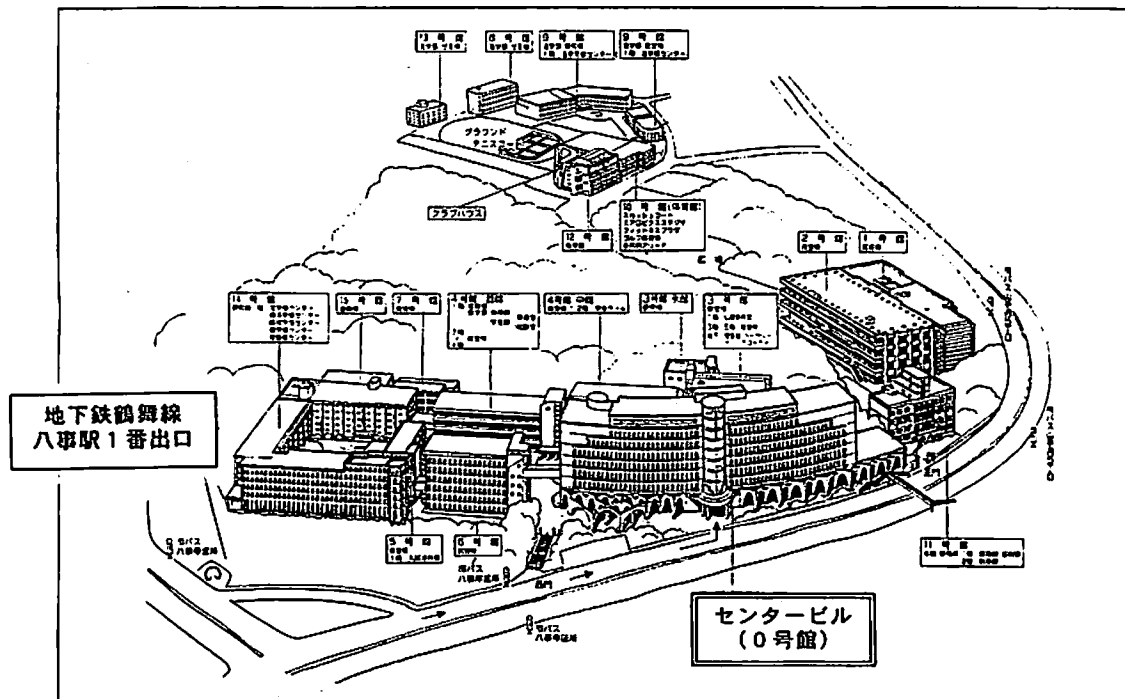
開催校・連絡先電話 0565-45-0971 内線 6659 (白井英俊研究室)

E-mail sirai@scs.chukyo-u.ac.jp

社会言語学会の第6回大会が開かれます。17件の<研究発表>、「滞日ニューカマーの言語習得と日本語学習」に関する<シンポジウム>、井出祥子・本学会新会長による<講演>など、充実したプログラムを準備しています。また、今回から、新たに、会員の提案に基づく<ワークショップ>も行われます。

たくさんの皆様のご参加をお待ちします。会員以外の方も参加できますので、お声をかけ合って、ご参加ください。参加費は1,000円、予稿集代は1,500円です。(事前のご予約は不要です。)

キャンパス配置図



手話通訳について

大会会場で手話通訳をご希望の方は、事前に学会事務局(専修大学永瀬研究室)までご連絡ください。学会規定により、費用の一部を補助いたします。

第1日 9月9日(土)

9:00 受付開始
10:00 開会

—— < 午前の部 > A会場(0703)/B会場(0704)で同時進行 ——

〔研究発表1：A会場(0703)〕

10:00-10:25 在日留学生の日本語習得と
社会・心理的要因との関係性

司会：橋田浩一（電子技術総合研究所）
杉本明子・黒沢学・文野峯子・大島陽子
（国立国語研究所／東京電機大学／
人間環境大学／お茶の水女子大学大学院）
小山 亘（シカゴ大学大学院）

10:25-10:50 方言，構造，普遍文法
一方言間のヴァリエーションと
比較言語学的普遍から特殊言語の構造を三角測量する方法

10:50-11:00 休憩

11:00-11:25 言語コミュニケーションにおける確認の機能
—レファレンスインタビューを事例として

坂詰洋子（南ソウル大学）

11:25-11:50 デス・マス体の「カ抜き」質問文について

島田和美（大阪YMCA国際専門学校）

〔研究発表2：B会場(0704)〕

10:00-10:25 日本語と韓国語における呼称の対照研究
—親族間の呼びかけことばを中心に

司会：荻野綱男（東京都立大学）

イム ヒョンジョン（広島大学大学院）

10:25-10:50 中国延辺朝鮮語の聞き手待遇における
使用実態について—家庭内・外を中心に

千 惠蘭（東京大学大学院）

10:50-11:00 休憩

11:00-11:25 スピーチレベルとスピーチレベル・シフト
における日韓対照研究

金 珍娥（東京外国語大学大学院）

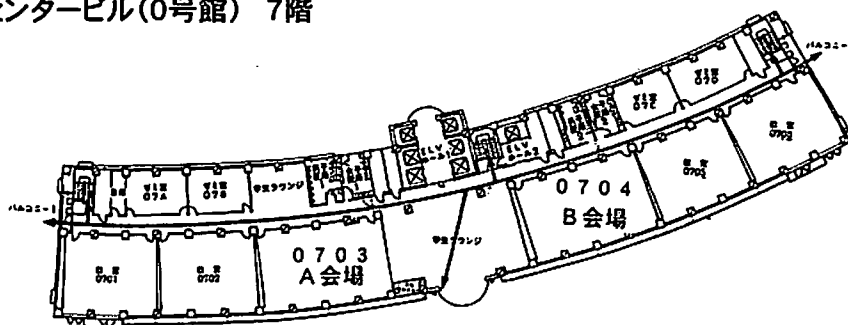
11:25-11:50 終助詞「もの」のポジティブ・ポライトネス

橋本佳美（大阪外国語大学）

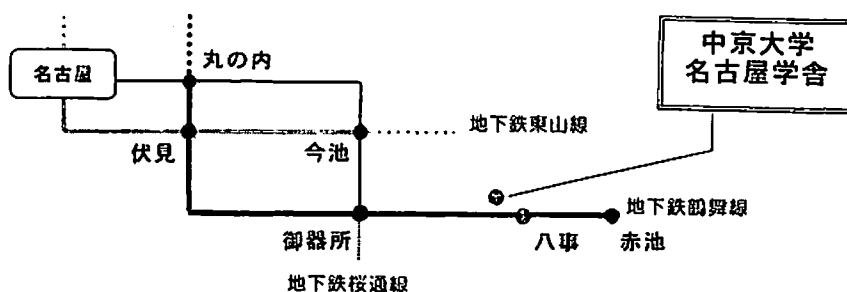
11:50-12:20 総会〔会場：0703〕

12:20-13:20 休憩（理事・監事は理事会）

会場案内図：センタービル(0号館) 7階



中京大学名古屋学舎へのアクセス：地下鉄鶴舞線「八事」駅（「名古屋」駅より約25分）下車，徒歩約5分



————— < 午後の部 > —————

13:20-14:50 講演〔会場：0703〕

【演題】 「日本語を『あいまい』にさせるもの
—高コンテクスト文化におけるメタ・コミュニケーション—

講演者 井出 祥子（社会言語科学会会長／日本女子大学教授）

14:50-15:00 休憩

15:00-17:50 ワークショップ ——— A会場(0703)／B会場(0704)で同時進行 ———

ワークショップ1〔A会場(0703)〕

【テーマ】 コーパスにもとづく言語科学—現状と将来

コーディネータ： 伝 康晴（奈良先端大学）
話題提供者： 橋田 浩一（電子技術総合研究所）
前川喜久雄（国立国語研究所）
石崎 雅人（北陸先端大学）
荻野 綱男（東京都立大学）
ほか数名

ワークショップ2〔B会場(0704)〕

【テーマ】 社会・文化的認知と談話分析の新たな視界

企画責任者： 井出 祥子（日本女子大学）
報告者： 津田 葵（大阪大学） 「公的な場でのスピーチにおける
『演じる』自己と『映し出される』自己」
松木 啓子（同志社大学） 「言語事象としてのインタビュー再考」
高野 照司（北星学園大学） 「日本人の言語交渉における
意見衝突場面の韻律ストラテジー」
片岡 邦好（愛知大学） 「メンタルマップの共同構築における
直示的移動動詞の用法について」

18:00-20:00 懇親会〔会場：サンナカムラ〕

————— 第2日 9月10日（日） —————

9:00 受付開始

10:00 開会

————— < 午前の部 > ————— A会場(0703)／B会場(0704)で同時進行 —————

〔研究発表3：A会場(0703)〕

司会：永瀬治郎（専修大学）

10:00-10:25 「言語的人権」についての批判的考察 佐野直子（名古屋市立大学）
—欧州地域語・少数言語憲章と「少数言語」

10:25-10:50 女性語と言語政策に関する一考察 鷲 留美（名古屋大学大学院）
—戦時期日本における国語協会と文部省の動向を中心に

10:50-11:15 カタカナ表記についての一考察 森口英則（名古屋外国語大学大学院）

11:15-11:30 休憩

11:30-11:55 言語療法場面の相互行為分析 前田泰樹（一橋大学大学院）

11:55-12:20 中国諷刺漫画におけるタイトルの補完性 南雲大悟（筑波大学大学院）
—“四人組打倒”表象を中心に

〔研究発表4：B会場(0704)〕

- 司会：日比谷潤子（慶応義塾大学）
- 10:25-10:50 「～てください」との比較を通じた、
米沢地域話者による「～テクダイ」の使われ方 山上龍子・高木裕子
（山形女子短期大学／山形大学）
- 10:50-11:15 英語方言接触による日本在住英米人の
(t)発音における変化とその言語的要因 平野圭子（西南学院大学）
- 11:15-11:30 休憩
- 11:30-11:55 発話行為論の談話への応用 佐藤 彰（小樽商科大学）
—インターアクションの社会言語学と
会話分析の立場からの批判的分析
- 11:55-12:20 表象変化に対する言語化の効果 落合弘之（中京大学大学院）
—ハノイの塔を解く過程のプロトコル分析
からの考察
- 12:20-13:30 休憩

————— < 午後の部 > —————

13:30-16:30 シンポジウム〔会場：0703〕

【テーマ】 滞日ニューカマーの言語習得と日本語学習

企画・司会： 西原 鈴子（東京女子大学）

話題提供者： 尾崎 明人（名古屋大学）

石井恵理子（国立国語研究所）

「接触場面における在日ブラジル人と日本人の
コミュニケーション・ストラテジー」

「子どもの言語教育に関する

在日外国人父母の意識」

コメンテーター： 日比谷潤子（慶応義塾大学）

16:30 閉会

ニュースレターに情報・原稿を

このニュースレターでは、会員の皆様からのいろいろな記事や情報をお待ちしています。



これは、社会言語科学会のシンボルマーク、九曜紋です。中央の大きな円は「コミュニケーション」、それをめぐって、さまざまな学問分野からの多くの研究者が集う学会を象徴するマークとして選ばれたものとの由。

多領域にわたる会員相互の有意義な情報交換の広場として、ニュースレターを育ててください。ご投稿・ご連絡は下記までお願いします。

社会言語科学会事業委員会 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

郵送の場合 〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所気付

faxの場合 03-3906-3530（所内共用）

訂正とお詫び

ニュースレター前号（第6号）において、真田信治氏の巻頭言の一部（2ページ冒頭、左列、2行目から11行目）が重複して印刷されていました。訂正し、お詫び申し上げます。

社会言語科学会事業委員会

第7回大会のお知らせ

ご予定に組み入れて、多数ご参加ください。

期日 2001年3月3日(土)～4日(日)

場所 國學院大學渋谷キャンパス

所在 〒150-8440 東京都渋谷区東 4-10-28

交通 JR (山手線, 埼京線) 渋谷駅から徒歩約 12 分

都営バス (渋谷→日赤医療センター) 「國學院大学前」下車

開催校・連絡先電話 03-5466-0230 (言語学研究室)

研究発表の募集

上記の第7回大会の研究発表を以下の要領で募集します。

[発表資格] 申込の時点で社会言語科学会の会員であること (申込と同時に入会も可。連名発表の場合、少なくとも筆頭発表者、口頭発表者は本学会員でなければならない)。

[発表内容] 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。

(社会言語学, 社会心理学, 社会学, 心理学, コミュニケーション論, 言語学, 言語人類学, 文化人類学, 語用論, 日本語教育, 英語教育, 情報科学, 認知科学, 人工知能研究, その他の分野で, ことばを社会や文化, 認知との関係でとらえた研究)

[発表時間] 原則として1件あたり25分 (質疑応答も含む=予定)。

(ただし報告本数を考慮し, 時間調整を行う場合もある)

[応募要領] (1)発表題目, (2)氏名, (3)住所, (4)連絡先電話番号/fax 番号,
(5)E-mail アドレス (利用していない場合は不要), (6)所属, (7)職名,
(8)発表要旨 1,200 字程度

を記載した E-mail を下記アドレスに送付してください。

なお, E-mail を原則としますが, 郵送でも受け付けます。その場合, 上記(1)~(8)の項目をなるべく A 4 用紙 1 枚に収めるようご記載ください。

※ 要旨の言語は日本語を原則としますが, 英語でも受け付けます。

[応募先] jasstaik@kc4.so-net.ne.jp

〒192-0364 八王子市南大沢 5-6-3-602

社会言語科学会研究大会委員会

事務担当: 東 直子

電話番号: 0426-75-2036 (fax 兼用)

[申込締切] 2000 年 11 月 30 日 (木)

[予稿集] 採否の結果は 12 月下旬までに応募者に連絡します。

発表者には, 発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします (A 4 で 6 枚以内, 締め切り期限 1 月 31 日=予定)。

なお, 応募の採否, 発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。

※第6回大会では, 20 件の発表応募があり, そのうち 17 件を採択させていただきました。

第7回研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ

研究大会委員会

研究大会では、従来、研究発表の他に大会企画として招待講演、シンポジウムなどを開催してきました。研究大会における会員間の交流を促進し、大会を一層実りあるものとする目的で、第6回研究大会より、新しい試みとして会員の提案に基づくワークショップを開催しています。特定のテーマを設定して集中的に討論を行い、研究課題の整理・発掘、新たな研究方向の提示、異分野間の認識の擦り合わせを目標とします。

第7回大会でも、上記趣旨により、ワークショップの企画を広く会員の皆様から募集いたします。企画提案者は以下の項目を添えて、E-mailにて下記までお申し込みください。

【提案項目】

- (1) ワークショップ題目
- (2) 企画責任者の氏名、所属、連絡先
- (3) 他のワークショップ参加予定者の氏名、所属
- (4) ワークショップの企画概要 (1000字以内)

【送付先】 jass-workshop@mic.atr.co.jp

郵送、faxの場合

〒192-0364 八王子市南大沢 5-6-3-602

社会言語科学会研究大会委員会

事務担当：東 直子

電話番号：0426-75-2036 (fax 兼用)

【締め切り】 2000年11月30日(木)

- ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に1企画あたり3時間程度での開催を予定しています。ワークショップ並列開催の可能性はありますが、研究発表とは重ならないよう設定する予定です。
- 会場準備の都合上、申し込み多数の場合には、すべての開催希望に添えない場合もあります。ご了承ください。



海外会員の年会費振り込みに、クレジットカード (MASTER と VISA) の使用が可能になりました。

カード利用をご希望の場合は、事務局 (専修大学永瀬研究室) に、(1)カード名、(2)個人番号、(3)有効期限、(4)カード上の署名、をお知らせください。ただし、E-mailでの連絡は悪用される可能性がありますので、郵送か fax を利用されることをお勧めします。E-mailでのご連絡によって生じたトラブルについては学会は責任を負えませんので、ご注意ください。(アメリカンエクスプレスも手続き中です。)

○年会費が未納ですと、学会誌「社会言語科学」やニュースレターの送付を受けることができませんので、年会費は早めに納入してください。

○会員の皆さんの個人情報に変更があった場合には、すみやかに事務局までご連絡ください。

◆◆夏のワークショップ「統計学の基礎と言語調査」参加者募集◆◆

上記のテーマのワークショップを、9月4日(月)～7日(木)の3泊4日の日程で、軽井沢にて開催します。会員、非会員それぞれ多数のかたのご参加をお待ちします。どうぞふるってご参加ください。詳しくは、ニュースレター第6号または学会ホームページ

<http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/jigyouiinnkai.htm> をご覧ください。

お問合せ・お申込みは学会事業委員会まで (連絡先は p.5 をご覧ください)。

学校法人江副学園 私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年12月に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人江副学園はカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称・CLC日本語学校）を開設しています。私達は、学校法人として若い研究者を応援することも目的の一つと考えています。

理事長・江副隆秀

東京都知事認可 新宿日本語学校 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

03(5273)0044（日本語教師養成講座併設）

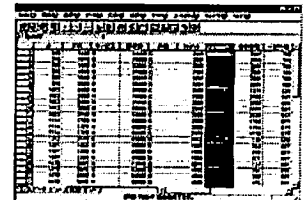
学校法人江副学園 CLC日本語学校 東京都新宿区西早稲田 3-26-13

03(5273)0753（月刊SNG発行）

SPSS 10.0J for Windows

優れたデータ管理、分析レポートとモデリング。貴方の研究に大いにご活用ください！

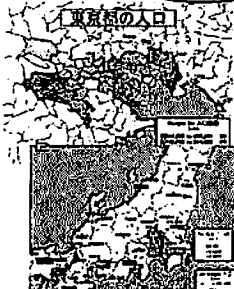
最新バージョン SPSS10.0J は、分析ソフトウェアの新しい標準を打ち立てました。膨大な量のデータに素早くアクセスし、迅速な分析を行います。



New Option SPSS Maps 10.0J

地図データを活用した待望のマッピングツール、遂に登場 強力なマッピングにより、優れた意思決定のための戦略的方針を地図情報としてチャートにします

全国市区町村行政界地図付き



SPSS Maps は SPSS データを地図情報としてマッピングする、SPSS10.0 の新オプションです。SPSS Maps があれば、地理的変数を使って結果を地図上にプロットできるので、どこで何が起きているかを的確に把握すること

- Key Features**
- SPSS とのシームレスな統合: SPSS メニューからダイレクトに実行可能
 - 1 つのテーママップオプション: 点密度・棒・円・値の範囲、個別値、段階マーカー、これらを任意に組み合わせた多重テーママップが作成可能
 - 様々なサンプルマップとジオセット: MapInfo フォーマットとして各色のマップが用意。さらに日本地図は全国市区町村行政界地図も付属
 - 必要に応じて補足マップをインポート可能
 - サンプルデータセット付き: Census Inc の Workplace Population, PRIZM, CLOUT データが利用できる。また 40 以上 40 以上の MapInfo テレグラフィックデータ付き。
 - SPSS シンタックスプログラミング対応
 - マップのエクスポート: 一般的なグラフィックファイル形式 (WMF, CGM, TIF, PCT, EPS, PNG, BMP, JPEG) にエクスポート可能

▼▼ SPSS Maps 10.0 価格 ▼▼ *SPSS Maps の稼働には SPSS Base 10.0 が必須となります。
 一般価格 アカデミック価格 *SPSS Maps サイバernet 版もご利用しております。SPSS Maps のご購入
 ￥ 98,000- (税別) ￥ 68,000- (税別) その他お問い合わせは弊社カスタマーサービス
 専任までお電話ください。お問合せ下さい。

- 稼働環境**
- Windows 95, 98, 2000 又は NT40 以上
 - 68DX 搭載または、それ以上の IBM 互換機
 - 32MB の RAM
 - 65MB のハードディスク
 - SVGA モニター; SPSS Base 10.0 必須

SPSS エス・ピー・エス株式会社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プラザビル 10F
 Tel: 03-5466-5511 (代) Fax: 03-5466-5621 e-mail: sales@spss.co.jp URL: http://www.spss.co.jp
 << SPSS10.0 ホームページ >> <http://www.spss.co.jp/product/spss10/spss10.htm>